

OUJ神奈川学習センター ふゆだより

通巻第61号

2015年1月23日発行

発行:放送大学神奈川学習センター

〒232-0061 横浜市南区大岡2-31-1

url: <http://www.sc.ouj.ac.jp/center/kanagawa/>

tel:045-710-1910 fax:045-710-1914



稲村ヶ崎から江ノ島を望む(6面に関連記事)

目次	「神奈川県地球科学的リスクと地学リテラシー」 客員教授 有馬 眞	2～ 3
	平成26年度学生研修旅行「千葉の自然と鉄生産」	4～ 5
	神奈川学習センターウォーキング 『片瀬から極楽寺坂切通へ!』	6～ 7
	面接授業「しなやかに生きる身体論ワーク」 面接授業「土壌生態学から見た地球システム」	8～ 9
	平成26年10月 学生生活に関するアンケート	10
	Kーサポートからのお知らせ／その他	11
	学生サークルからのお知らせ／同窓会だより	12～13
	学習センターからのお知らせ	14
	科目登録を申請してみよう!	付録

神奈川(みなとみらい)



神奈川県地球科学的リスクと地学リテラシー

放送大学神奈川学習センター

客員教授 有馬 眞

はじめに

昨年4月に本学習センターの客員教授に着任してから8ヶ月が経過しました。その間、面接授業、公開講演会、同窓会講演などで多くの方々と接し、皆様の勉学に対する情熱と熱意をつよく感じました。私の専門分野は地球科学、とくに固体地球科学とよばれる分野です。私たちの暮らす神奈川県は地震や火山活動の活発な地域として知られております。ここでは、神奈川県の地球科学的リスクと地学リテラシーについて述べたいと思います。

地球システム変動と人間圏の持続的発達

惑星地球は、磁気圏、大気圏、水圏、生物圏、土壌圏、固体地球(岩石圏)、そして人間圏などのサブシステムからなる巨大なシステムと捉えることができ「地球システム」と呼ばれます。それぞれのサブシステム内部では複雑な運動と変化が起っていますが、同時にサブシステム間で物質とエネルギーのやり取りが行なわれており地球全体の挙動を制御しています。人間圏の持続的発達可能性は、地球システム変動に大きく依存しています。地球システム変動には、1)長期的かつ穏やかな変動と、2)短期的または地域的な急激な間期的変動があります。前者には、人間圏からの物質フローによる影響が大きい、地球温暖化、砂漠化、土壌流出、酸性雨などの広域汚染、生態系の衰退と生物多様性の消失などがあげられます。他方、後者には、地震、火山噴出など固体地球の変動に起因する自然災害があります。人間圏の持続的発達可能性を保つためには、地球システム変動からの負の影響を取り除く活動が必要であり、そのためには、穏やかな変動メカニズムをグローバルな視点から理解することが重要であり、また同時に、地形・地質・気候・植生など地域の自然環境の特性を理解する必要があります。とくに、急激な固体地球の変動により引き起こされる地震災害や火山災害などは、多くの場合、一定の地域に限定されるため、災害リスク軽減のためには、私たちが暮らす地域の地球科学的特性についての理解(地学リテラ

シー)が重要と考えられます。

神奈川県の地球科学的特性

神奈川県は本州プレートとフィリピン海プレートのプレート境界に位置しています。1923年の関東地震の震源は神奈川に位置し、神奈川県から房総半島の直下には関東地震の震源断層が横たわっています(図)。神奈川県には、地球システムの急激で間期的な変動要因が直接作用しており、過密な人口や水道、電気、鉄道、高速道路などの近代インフラには高い災害リスクがあります。いっぽう、神奈川県西部の水源地には、近接する大都市圏から大気により汚染物質が搬送されており、その生態系サービス機能が劣化しています。では、神奈川県の地球科学的特性を概観しましょう。



神奈川拡大流域圏は、フィリピン海プレート、太平洋プレートそして本州プレート(ユーラシアプレートおよび北米プレート)の会合部に位置しています。現在の太平洋プレートとフィリピン海プレートのプレート境界は伊豆-小笠原海溝に、フィリピン海プレートと本州プレートのプレート境界は、相模トラフから相模湾、足柄平野、酒匂川流域、駿河湾を結び駿河トラフにいたる位置にあります。ここでは、ユーラシアプレート、フィリピン海プレート、北米プレート、太平洋プレートが接して複雑な運動をしており、太平洋プレートが東から西にフィリピン海プレートの下に、フィリピン海プレートが北に動いて本州プレートの下に沈み込んでいます。

フィリピン海プレートが本州弧の下に沈み込み、相模トラフと駿河トラフを形成していますが、伊豆-小笠原弧の中心を形成する島弧の高まりは本州弧に沈み込むことができず衝突・隆起し(これを島弧と島弧の衝突と呼びます)、巨摩山地、御坂山地、丹沢山地、伊豆半島などの地塊が形成されました。相模トラフでは、フィリピン海プレートが本州弧の下に沈み込み、フィリピン海プレート上部を構成した海底堆積物が相模トラフで陸側に付け加わり(これを付加作用と呼びます)三浦半島南部と房総半島南部の地質が形成されました。

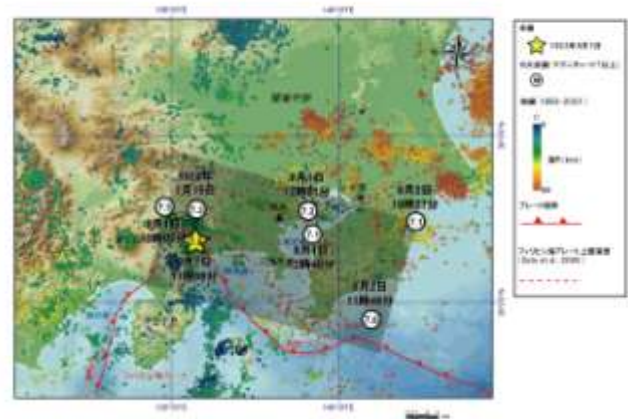
神奈川拡大流域圏には伊豆-小笠原弧と本州弧の衝突により形成された多くの大規模な断層が分布しています。相模湾の海底にある相模湾断層、大磯丘陵の西縁にある国府津・松田断層や、丹沢山地の南縁を通る神縄断層はその代表例です。三浦半島にも、北武断層、武山断層、南下浦断層などの活断層が存在しています。このような島弧衝突は約1400万年前に始まり現在も続いており地殻変動が活発で、1703年の元禄地震、1923年の関東地震(関東大震災)など大規模な地震が起きています。

関東地震震源域と大都市圏

神奈川県には、人口950万を超える人々が生活しており、そのほとんどが東部平坦地に集中し横浜、川崎などの巨大都市を形成しています。これら大都市圏は、フィリピン海プレートと本州プレートのプレート境界に近接しており、地球システムの急激な変動要因が直接作用している世界でも稀な地域です。最近の研究によれば、関東地震震源断層は神奈川県直下約20km以浅に東西に横たわっており、神奈川県西部の松田付近と三浦半島の地下にプレート間の強い固着域(アスペリティと呼ばれる)が分布していることが明らかになっています。アスペリティでは、フィリピン海プレートの沈み込みによる応力が集中し歪みが蓄積しており、岩石の破壊強度に達すると急激に破壊し地震が発生します。1923年関東地震は神奈川西部、丹沢山地の南方を震源とする大地震であり、東京-横浜大都市圏に甚大な被害を与えました。その地震規模を表すマグニチュードは7.9という大規模なもので、それにより放出されたエネルギー

は、1995年兵庫県南部地震(マグニチュード7.2、震源の深さ約18km)の約10倍に相当します。さらにマグニチュード7級の余震が多く発生したことも他の地震とは大きく異なる特徴であり、島弧衝突帯における複雑な地殻構造に起因しています。地震直後から発生した大火災などにより10万人以上の尊い人命が失われた。一方、都市部から離れた丹沢山地や箱根付近では大規模な山津波や斜面崩壊が多数発生し、800人近くが命を落としました。1923年関東地震は土砂災害に関しても過去最大級の規模であったといえます。

神奈川県の地震発生環境



神奈川県では関東地震加えてマグニチュード7級の地震リスクを想定する必要があります。神奈川県西部では、1633年の寛永小田原地震(マグニチュード7.0)がマグニチュード8.2の元禄関東地震(1703年)発生70年前に、元禄関東地震の79年後の1782年に天明小田原地震(マグニチュード7.0)が関東地震震源近くで起きています。その71年後の1853年には嘉永小田原地震(マグニチュード6.7)が発生しています。1923年関東地震発生からすでに約91年が経過しています。現状では巨大地震がいつ発生するかを正確に予想することは困難ですが、それは将来必ず発生します。自らを守り、家族を守り、さらに地域コミュニティを守るために、各人が具体的な災害対策を行うことが必要です。

平成26年度学生研修旅行「千葉の自然と鉄生産」

バス研修旅行に参加して

中澤 栄子

10/8(水)の研修旅行を知ったのは、一学期の単位認定試験の時、神奈川SCの入り口にお知らせのパンフレットがあったので「遠足」感覚で申し込みました。(タダで日帰りバス旅行に行けたらラッキー！程度です)去年の研修旅行も知っていたのですが、今回初めて申し込みました。

当選し、お弁当などの諸費用を支払いにSCに行き、その時に私は食物アレルギーがあり市販のお弁当を食べる事が出来ない為、相談しました。担当の事務局の片野さんにはお手数おかけして申し訳なかったのですが、自分でお弁当を持参して当日参加しました。

「遠足」「日帰りバス旅行」甘かったです。「研修」でした。集合場所の横浜西口の天理ビルには、Kーサポートのスタッフの皆さんが待機していて、当日1名の方がまだ来ていないとの事、少し待っての出発でした。申し込み時に自己紹介文みたいなのを書きましたが、参加者全員の紹介文が掲載された資料が配付され、移動中にKーサポートのスタッフの皆さんの紹介、参加者全員の自己紹介文の紹介があり、1時間程で千葉県立中央博物館に到着しました。(千葉まではあつという間でした)

最初は館内見学で既にその時点で、時間内に全ての見学が出来ない事がわかりました。(じっくり見るには1日必要と思います)当日の展示物で、子供用の図鑑の展示では学芸員の方の説明もありました。次が生態園見学で人数が多い為に2班に分かれて園内見学でした。(藤原先生のグループは羨ましかった)単に森

と思っていたのですが、自然林と人口林の木の生え方の違い、千葉なので紅葉の



木はないと思いますが、足元にどんぐりや栗のイガが落ちていて秋を感じる時間でした。歩きながら学芸員の方の説明を聞きました。植物の種類や見分け方、途中で大きな蜂の巣があり、あんなに大きな巣を見た事はなかったです。

次はJFEスチール(株)の見学で博物館から10分もしない移動です。JFEスチールは川崎製鉄と日本鋼管が統合した会社で、「J」はジャパン、「F」は元素記号の鉄のF、「E」はエンジニアリングの意味です。まずは見学センターの研修室での説明で、入室時にヘルメット、トランシーバー、イヤフォン、軍手を渡されました。トランシーバーとイヤフォンは、工場内の機械の音が大きく、担当者の方の声、質問の音が聞こえないので使用します。研修室ではJFEの担当者の方からの説明で、日本の製鉄技術、製鉄所の分布、売上高



等の説明があり、一番驚いたのは韓国、中国の製鉄会社が売上げを急激に伸ばしている事でした。工場内へはバスで移動しました。溶鉱炉が稼動する時間は決められていて、その時間に間に合わず、バス車内から、遠目に赤い鉄を見ました。工場内は私有地なので、一般道で走っていない車両がいくつかあり、鉄が重いので、たくさんのタイヤが付いてる鉄のローラー運搬車、運転席が前と後ろと両方付いてる車などが通行しています。車線は一般道と同じで左車線を走行します。鉄の製造ライン見学は初体験でした。工場が



大きい為かなり急な階段を結構上り工場内に渡っている鉄の廊下を歩いている見学です。とにかく暑い。熱風がすごいです。ほとんどがコンピューターで制御されているとの事で、工場内はあまり人がいませんでした。真っ赤な熱い鉄が流れている工程を上につけられた橋上から見学したのですがもっとゆっくり見たかったです。



見学が終わり、研修室に戻った時に缶ジュースとお土産用の定規を頂きました。缶ジュースはこれも初めて知ったのですが、缶には製造された製鉄所のマークがあるそうです。普段は主な団体見学は小学生なので、定規は子供向けの紙の定規です。これが印刷教材に線を引く時に曲がるので非常に重宝しています。

JFE見学後は、アクアラインの海ほたるで休憩しての帰路でしたが、私は仕事でそのまま出張の為、JFEの最寄り駅のJR蘇我駅から成田空港に向かい、最終便で大阪に向かいました。

2014年「学生研修旅行」

K-サポート 村田 カズ子

2014年度の神奈川学習センターバス研修旅行のテーマは「千葉の自然と鉄生産」と決定、10月8日(水)に学生教職員42名参加で実施された。

5月にセンター職員、K-サポートチーム員、同事務局の9名で下見を行った。その時は候補に挙がっていた5か所を一日で回ったのでまさに分刻みのスケジュールであった。

目的、見学時間、交通事情などの条件を考慮して

①千葉県立中央博物館 ②JFEスチール(株)の2か所に決定。参加された中澤さんに感想を寄せて頂いたので当日の流れは文面から私も復習さ



せていただいた。

生態園を併設する県立千葉中央博物館は「地球の緑を育てる会」で世界的に著名な横浜国大名誉教授・宮脇昭先生と発展途上国の植樹活動を精力的に進め、日本各地でも緑の再生に取り組んでいらっしゃる神奈川学習センター客員教授の藤原一繪先生(植生学)一押しの場所である。大地の成り立ち、東日本大震災とプレートテクトニクス理論など地球の営みを学ぶ場となり、隣接する生態園では人工林とはいえ開園して20年目の緑の生命力に励まされたこと、充実した館内の展示内容と『図鑑』の企画展では学芸員の解説を一言も聞きもらすことの無いようにと熱心に耳を傾ける放送大学生の本髄が見られ、期待通りの博物館であった。

またJFEスチール(株)では日本の基幹産業である製鉄工場の現場を目の当たりにできた感動と中国、韓国にシェアを奪われつつある現状だが、依然として日本の技術の高さを再確認できたことを率直に認めた参加者のアンケートからは充実した時間を共有できたことが伝わり、お手伝いをさせて頂いたチーム員としても嬉しいことである。

研修旅行の特長は車中での各先生のミニ講座である。恒例の講座は参加者の楽しみであり、往路は藤原先生『房総半島の植生』、帰路は池田所長『東京湾アクアライン・羽田空港D滑走路』と角先生からの話と学びの時間への感謝の言葉がたくさん寄せられた。チーム員による資料作成、今回も高い評価を頂いた。

東京湾に浮かぶアクアライン・海ほたるPA(住所は木更津市)の川崎側の海底トンネルは9.6km、高速道路上では関越トンネル、飛騨トンネルに続き第3位の長さであると記憶している。帰路の海ほたる立ち寄り、初めての方には更に旅の思い出となった。当日は3年ぶりの皆既月食の日とも重なった。海ほたるからの眺め「夕闇迫る海上に輝いた満月は本当に美しかった」Aさんの感想である。



神奈川学習センターウォーキング『片瀬から極楽寺坂切通へ!』

「七里ヶ浜沿いウォーキング」に参加して

教養学部全科履修生 金子 響

恒例の神奈川学習センターウォーキングの会主催のこの行事に、毎回参加していますが、メンバーの方の素晴らしい企画や60名余の参加者に対する大変なご配慮、準備に感心、感謝申し上げます。さて、今年の会は、10月25日(土)午前10時、江の島東浜に集合し、神奈川学習センター池田所長のご挨拶に始まり、終点の御霊神社に至る約7キロ(約15,000歩)の道を江の島を背景に海沿いの景勝地、史跡を巡る秋の天候に恵まれた楽しい一日でした。私にとって特に印象深かった箇所を三つ挙げるとすれば、龍口寺麓の「日蓮聖人龍口法難の地跡」、「稲村ヶ崎」、「極楽寺周辺」でした。

「龍口法難の地跡」は、日蓮聖人が「立正安国論」を北条時頼に提出し、鎌倉幕府や他宗派からの攻撃などにより処刑されようとした時、江の島方面から光物が差し、処刑役人の目をくらまし、難を逃れたとのことでしたが、六十数年前の小学生の頃に見た長谷川一夫主演「日蓮と蒙古大襲来」という映画にそのようなシーンが

あったことを突如思い出し、何かのご縁ではないかと感じた次第です。

その後、義経と弁慶の腰

越状で有名な「満福寺」などを経て、本日のお楽しみのお腰越漁協の屋上で、当日の朝、取れ立てのアジのフライを堪能しながら昼食を頂きました。

昼食後は、七里ヶ浜を波の音とカモメの鳴き声を聞きながら、「稲村ヶ崎」へ到着。ここから新田義貞が戦勝を祈願し、剣を海中へ捧げると潮がたちまちの内に引き、鎌倉攻略を成し遂げたという伝説の地であると同時に、明治末期には逗子開成中学生のボート海難事件の碑があり、景勝の地でもあることから、「真白き富士の根」と「鎌倉」という唱歌を全員で合唱しました。

次は「極楽寺周辺」です。極楽寺駅手前では、江ノ電車庫の外観を見学し、極楽寺駅横の踏切手前

は、中井貴一主演のテレビドラマ「最後から二番目の恋」のロケ地となった家の前で、家主のちょい悪風のオジサンに合い、リーダーが気楽に声を掛けて話を聞き、歴史から現在まで幅広い積極性に感心しました。かつては広大であった極楽寺境内散策後、極楽寺坂切通しのあった「成就院」入口まで登り、如何にここが難攻不落の地であったかをこの身で感じ取り、同時にアジサイの時期は素晴らしい眺めだと想像を巡らしました。

終点の御霊神社の御祭神は、鎌倉権五郎景政ですが、たぶん歌舞伎の「暫(しばらく)」のモデルだと分かり、一人で納得しました。

できれば、次回も参加したいと願っています。

ガイドリーダーとして初参加

自然と環境コース 鈴木 康年

10月25日(土曜)、爽やかな秋晴れのもと「片瀬から 極楽寺坂切通へ!ウォーキング」をK-サポート地域連携チームの会によって開催しました。

私は過去3回、このウォーキングに参加してきましたが、今回初めてガイド(グループのリーダー)としての参加です。ガイドはグループに属する約10名の参加者をサブリーダーと協力して道案内、ガイド、安全確保等を行う要の役です。約1年、コースの設定、歴史的勉強、下見ウォーキングを地域連携チームの会で準備してきました。今回のメインテーマは1333年鎌倉幕府を倒した「新田義貞」の鎌倉攻めとし、源義経、日蓮上人のゆかりの地も含めました。ガイドするためには今まで以上に多大な時間が必要でしたが、歴史や鎌倉の地理に一層興味が持てました。

本番の朝。参加者(放送大学関係者約53%、地域の方々約47%で正に地域連携に相応しい参加比率であった)と放送大学教職員



やガイドリーダーの学生等を含む総勢80名が、江の島・東浜に集合しました。



10時。放送大学神奈川学習センターの池田所長、藤田事務

長の挨拶を頂き、続いてチームリーダーの藤田緑さんの挨拶、Kサポート事務局垣谷江里子さんからの連絡が清々しい朝の浜辺で行われました。

10時15分。6グループに分かれて、それぞれにガイド、サブリーダーがついて出発。ガイドとサブリーダーは放送大学神奈川学習センターのハッピーを着用して参加者から判りやすくし、放送大学の宣伝にも寄与しました。

コースは東浜スタート→龍口明神社→龍光寺→ぼたもち寺→満福寺→浄泉寺→小動神社→腰越漁港→行合橋→稲村ヶ崎→11人塚→江ノ電車庫→極楽寺→極楽寺切通→成就院→星の井→御霊神社がゴールです。約7Kmの行程です。

最初の龍口明神社は創建538年、鎌倉に現存する最も古い神社で、江島神社(弁財天)との夫婦神社。な、なんと、60年に1回「還暦巳年大祭」が行われ、その際は五頭龍像(御神体)を鎮座した神輿を江島神社まで運びます。直近では平成元年(1989年)に行われ、今回は平成61年(2049年)、今から35年後です。

「おお～！見てみたいが・・・」の聲が上がりました。立正安国論により処刑されかけた日蓮上人「龍の

口法難」ゆかりの龍口寺、ぼたもち寺を見て、源義経が義兄源頼朝に「腰越状」を書いたことで有名な満福寺見学。寺入り口の階段前が江ノ電の踏切！で、驚きました。



いよいよ新田義貞関係の小動岬にある小動神社に到着。ここに義貞が鎌倉攻めの本陣を置きました。岬からは江の島、腰越漁港、相模湾が一望でき、たくさんカラフルなヨットも目に飛び込んできました。時刻は12時半、昼食。腰越漁港は鎌倉以前からの漁港で現在も名物のシラス(鯛等の稚魚)、鰯、鰯等の漁が続いています。朝捕りの鰯や鰯等はフライにして安価で午後1時から販売しています。本日は藤田さん、垣谷さんの交渉により12時半から販売して

もらい、漁業組合の屋上(フェンスがあり鳶対策万全)も昼食場所に貸して頂きました。参加者全員が鰯又は鰯のフライを堪能しました。うまい！おいしい！の連呼でした。

食後は、心地好い海風をうけながら七里ヶ浜沿いを江ノ電と並行して3Km程、連続ウォーキングして稲村ヶ崎に到着です。新田義貞はここを突破しなくては鎌倉に入れぬ。黄金の太刀を海に捧げて龍神に願ったところ、にわか潮が引いて大軍を通すことに成功しました。これによって鎌倉幕府を滅ぼすことができたと言われます。また、明治42年1月の逗子開成中学ボート遭難の地としても有名です。これに因んだ「真白き富士の根」を各グループや合同グループで歌いました♪多くの方がこの歌をご存知でびっくりでした！

11人塚、袈裟掛けの松、針磨橋を見ながら極楽寺へ到着。ここは新田軍と幕府軍の攻防の要。極楽寺川、極楽寺坂切通等の天然の要害でした。また、極楽寺は幕府が奈良から真言律宗の忍性を招き、国家安泰を祈る勅願所でした。寺は大変広く、医療・福祉の慈善事業、土木建設事業の中心地でもありました。同じく鎌倉攻めの火中にあつた成就院、現在は紫陽花と縁結びの寺として有名、寺を拝観して予定どおり午後4時、御霊神社に到着・解散しました。無事に終わることができてスタッフ一同、大喜びです。



私は初めてのガイドで、緊張のあまり少しコースを間違えてしまいましたが、参加者の方には温かく見守って頂き、感謝です。下見はメンバーと3回行いましたが、1回は自分のみで実施すべきとの教訓を得ました。

ガイドは大変な面もありますがチームメンバーとの楽しい交流、自分自身の勉強(歴史、地理等)の励み、参加者に喜んで頂ける等、得るものが大です。これからも継続したいと思います。関係者の方々ありがとうございました。



面接授業「しなやかに生きる身体論ワーク」

受講生 小林 真由美

秋も深まった10月23日と26日、高橋和子先生のご指導の下、神奈川学習センターの2階のカーペット敷きの第8講義室で、机、椅子を全て後方へと寄せ参加者全員が広々と横になれる程のスペースを設けてワークが始まった。



高橋 和子 横浜国立大学教授

高橋先生はじめ、初日は先生の大学の生徒さん2名が、笑顔で私達参加者に向けて話しかけてくださり、次第にワークが進むに従って場の空気がリラックスしていった。

私がこの面接授業を選んだ理由は、面接授業概要に高橋先生がお書きになったと思われる、私たち学生へ向けての“問いかけ型”で書かれた文章3行に目がとまり、半ばままと先生の策略？に操られるように応募をしたのだった。正直なところ、実はそれだけではなく、私が今その時の自分の気持ちにぴったりとはまった感覚を“一人では生きていけない社会の中で、他者と関わる術を知ること。それをからだを動かしながら感じたり、表現したりしていきたい。”というメッセージに見出したこそ参加への意欲が募ったのだと思っている。



1日目は、高橋先生がくつなくのくのない人なつこさで学生の皆さんに接すると、先生の動きについて、室内を自由にぐんぐんと歩くことから始まり、その場で隣り合った人と組みをつくって背中合わせになって床に座った。それぞれが、無言で“喜び、悲しみ、怒り”を感じながら背中合わせになった相手に伝えるというワークをやった。ワークの直後はお互いにどんな感じがしていたかを話し合う時間もとられた。初めて会った方が是までに経験した自分の思いを含めてお話を聴かせて頂くこともあり、ひとの人生に触れることが出来た貴重な時間だったと思う。このワークでは、“怒り”の感情が全身

を緊張させるせいか、お互いが感じ易かったのがやってみて初めて解ったことだった。



その後は、床に完全に横たわり“深く長い呼吸法”を静かで落ち着いた空気感のなかで体験し、そうかと思うと、その後は3人組をつくって“バランスのとれたウォーキング”を手足、背中に意識を向けながら、仲間の2人に後方からサポートをしてもらいながら勢いよく室内をずんずんと歩き回り、軽く汗が出るような運動も全員が楽しんで参加出来た。

初日の終わりには、参加者同士が感想を伝えあえるような楽しい学習の場となっていたように思う。

2日目、初日のワークを振り返り、「軽い筋肉痛になったわよ」と笑顔でお互い話し合ったり明るい雰囲気の中、高橋先生が登場された。

この日は参加者同士の関わり合いのワークもありながら、自分自身の感覚に気づいていくことが出来るような静かなワークを経験したように思う。特にお昼の休憩を含んで2時間の間にもワークの課題が出され、ひとりきりで自分を見つめる時間をとるということによって学生が其々学習センター周辺のお寺や川沿い、遺跡などへ出かけていき心を落ち着かせて過ごす時間をもつ体験をした。普段ひとりで散策などすることが無かった私には最初は怖々した気持ちで出発したが、普段行くことのない弘明寺商店街付近の川沿いをゆっくりと歩いてみると水面が美しく輝く秋の風景を五感を通して味わう事が出来、とてもゆったりとした気持ちになって教室へ戻ってくる事が出来た。

このワークを通じてお会いすることが出来た様々な年齢層の仲間たちから元気を頂き、お互いが軽い言葉を交わすことから少しづつ知り合い、其々のペースで心を開き、関わり合っていくことが出来る実感を得ることが出来たと思う。本当に充実感に満たされた楽しいワークであったと感じている。



面接授業「土壤生態学から見た地球システム」

受講生 青木 咲子

11月15日と16日「土壤生態学から見た地球システム」が、講師：金子信博先生、講義室と実験室を使って行われた。

(編集部)

以前東北地方をバスで旅したとき、青森県から秋田県に入るとこれまでトドマツを主としていろいろな木が好き勝手に生えているよう



金子 信博 横浜国立大学教授

に見えた道路沿いのうっそうとした林が一変して山に整然と植えられたスギ林に変わる光景を見て以来、日本の森の状況はどうなっているのか詳しく知ってみたいという思いがずっと私の頭の隅にありました。

私が今学期受けた面接授業はすべて生物に関する科目で、木と森林、虫や地上植物を中心とした神奈川県の実験室で、そして土壤生態学



だったのでもちよほど順を追って木の上から地中へと降りてきた形になります。そして土壤生態学はまさにこれらの内容の復習とも、これからさらに学習を進めるにあたっての予習ともなるような講義で、講師の金子先生のとて興味深いお話が、受講生たちに新たな学習への入り口をたくさん開いてくださったよう思います。

授業は2日間の各日ともにたくさんの図表や写真の載った資料を使ってのレクチャーと質疑応答が3時限、生物実験室を使っての実験と観察が1時限で、レクチャーの中には受講者一人一人が木の葉を拾って登校し、それらが分解されやすい順に並べてみるなど紅葉



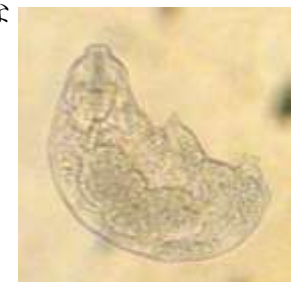
実験に使われた土壌(上)
土壌による水の浸透の違い(下)

の季節ならでの内容もあり、カラフルな葉っぱを眺めながら楽しく落ち葉の積もった地面がどのように土壌となっていくか、そこにどんな生物の働きがあるかを考えていくなど、受講生はたくさん集まった葉っぱの美しさを楽しみつつもそれだけでは終わらないよう土壌の世界へと興味がいざなわれていました。

実験ではTA(指導アシスタント)の大学生・院生の方の助言も受けながら土の計量をしたり、ふるいにかけて、顕微鏡で観察したりしながら土壌物理性解析に挑戦しました。顕微鏡をのぞくのは何十年ぶりという方もいらしたようで、実験の手順に初めは戸惑いながらも少しずつその面白さに夢中になっていきました。今回は3種類の違う環境の土壌表面の土を比べてみたのですが、見た目だけでは色が違うくらいしかわからない土であっても解析をしてみると含まれる水分の量、空気の種類、顕微鏡で観察できるもの等が違って、それによってどの土か推定することができます。またレクチャーの中で宇宙空間でも生き残れるらしいすごい生き物として話題の生物と紹介があったクマムシや、ハエの幼虫、トビムシなどなかなか肉眼で見ることができない生物を観察することができ、非常に興味深かったです。



この講義を通じて、通常はつい目が行ってしまう地上の世界にも増して土壌はたくさんの生物が生息し複雑な生態系が形成されていること、そのバランスを保つことが資源の保全につながることを、またその土地や気候風土に即した生態系の保全が必要なことを知りました。そして土壌の持つ力が環境問題の解決に貢献する力を秘めていることが分かったのでこれからは庭の虫もあまり邪険にしないようにしようと思いました。

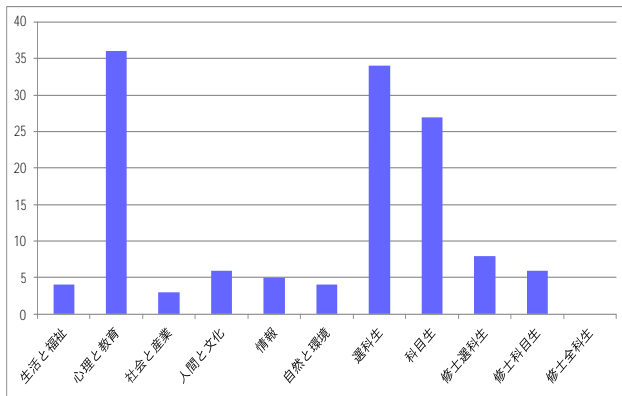


顕微鏡で観察された「クマムシ」

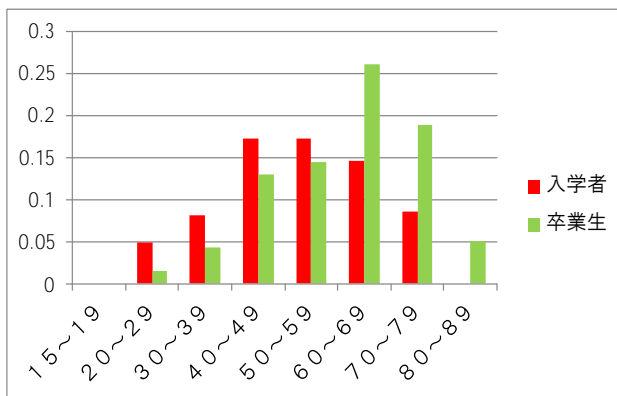
平成26年10月 学生生活に関するアンケート K-サポート機関紙編集チーム

9月28日(日)神奈川学習センターの学位記授与式には67名の卒業生が集いました。また、10月4日(土)の入学者の集いには、入学者163名が参加。学習センターだより編集部では、前年度同様のアンケートを実施し卒業生からは、57名の回答があり回収率85%。入学者は、132名から回答を得て回収率は、81%でした。(入学生と卒業生のアンケート、あわせて掲載しています。)

はじめに、入学生の学生種別(下図)です。全科生、選科生、科目生の割合は、44%、36%、25%で、選科生の割合が増加しました。コースでは心理と教育が突出する傾向が顕著となっています。

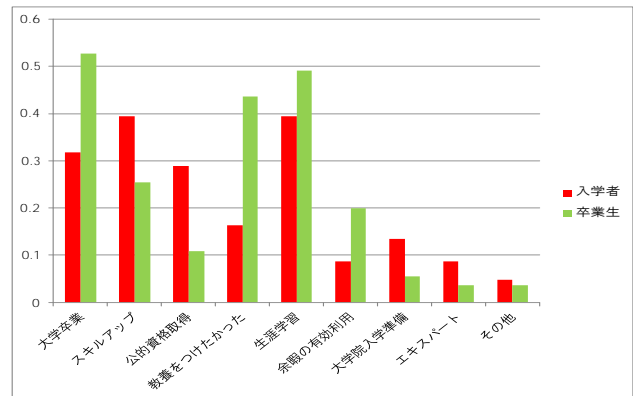


つぎに、年齢構成です。(下図)入学生では、10代80代がなくなり、40～60代が多く、年齢の幅が狭くなりました。卒業生は、60代の顕著なピークとなり、

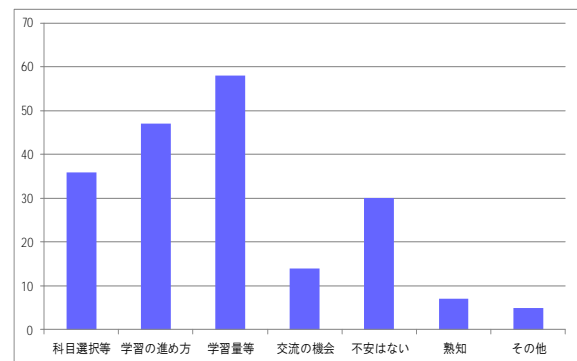


30代までの若年層が減少しています。

入学動機を見てみましょう。入学生では、スキルアップをあげた方が増えて前年より生涯学習の指向が弱くなりました。また、卒業生では、教養をあげた型が増加しました。各項目に共通しますが、入学

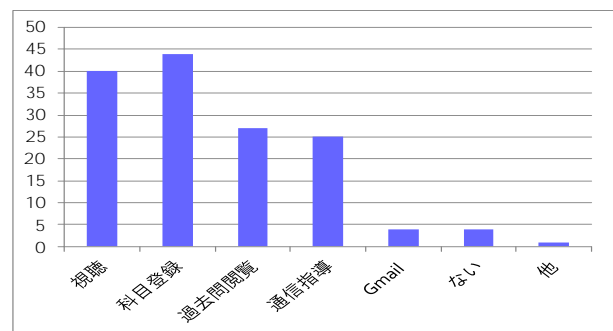


者、卒業生間で意識の大きな乖離が見られますが、学位記授与式と入学者の集いが別日程になったため、両方の行事に参加した再入学者が少なかった影響の可能性もあります。



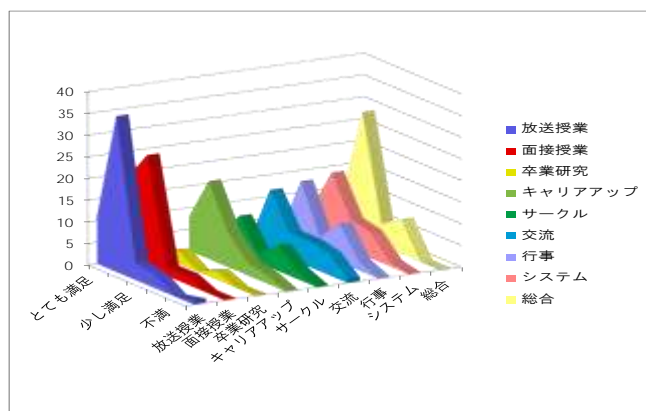
入学者が、どのようなことに不安を感じているかを聞いた質問です。新入学者の割合が大きかったにもかかわらず、単位取得への学習量が不安という割合が大きく、入学前に放送大学の学習について充分に調べていると推測できます。入学者の意識が高いことが想像される傾向です。

今回より、パソコン利用とパソコンサポートに関する項目が加わりました。卒業生のキャンパスネット、システムwakaba等の利用状況です。科目



登録や放送教材の視聴を中心に、実に90%以上の卒業生の利用経験がありました。

卒業生の学生生活満足度です。以前みられた、評価が二極化する傾向が再度あらわれてきました。



自由記入欄(卒業生)

・放送大学の勉強では、とくに面接授業が面白く有意義。(4名)

自由記入欄(入学者)

・趣向のあった専門のサークルがあったらよかった。(語学、スポーツ、芸術、ボランティア系など)(3名)

・サークルがあるのはよい。(3名)

・図書室の開館時間を延長してほしい。(実質的に利用できない。)(2名)

・試験日が選べたり、資格が取れるようになるとうい。

・音楽に関する学科がもっとあると嬉しい。

初めてのAED講習会開催

平成26年12月17日(水)午前10時から正午にかけて、所内に設置されたAEDをいざというとき迅速に使用できるように、職員向けにAED講習会を初めて開催しました。

当日は、横浜南消防署大岡消防出張所岡本所長から、職員等10名に対して、AED操作方法を中心に充実した講義及び実技演習があり、いつ起こるか、わからない救急命事態への基本的対処方法を学ぶことができました。



Kーサポートからのお知らせ

○学習相談チーム

Kーサポートの学習相談、2015年度第1学期は、**4月18日から6月21日までの土曜日と日曜日、午後1時から午後3時50分の間、2階談話室の相談コーナー**で行います。予約は不要です。

放送大学での学習に関して困っている点に限らせていただきますが、まずは気軽に何でも相談にきてください。

○パソコンサポートチーム

第2学期の活動はあと2回。会場は「実習室」です。参加お待ちしています。

・2月15日(日曜)13:00~16:05

「ホームページの利用ー科目登録の提出」
内容:長谷川先生の講義とサポーターの操作支援 ※神奈川学習センターへ申込み必要です(定員制、空若干名)。

・2月24日(火曜)13:00~16:05

「個別サポート」
内容:サポーターによる操作支援(科目登録の提出および2学期の復習)
※申込不要。直接「実習室」にお越しください。

放送大学叢書の販売

神奈川同窓会では、放送大学叢書を定価の約10%引きで販売しています。

学習センター行事に合わせて販売を行い、次回は、3月1日(日)春のフェスタ、3月15日(日)サークル成果発表会の12時から15時頃まで。詳細については、2階談話室の同窓会掲示板および1階ロビーの掲示板「放送大学叢書取扱一覧」等をご覧ください

OUJ神奈川学習センターだより編集部

赤松、家田、伊藤、入江、遠田、笠井、吉川、木下、
宮崎、福馬、三国、和田
(50音順、以上、Kーサポート機関紙編集チーム)

垣谷(Kーサポート事務局)
宮崎(学習センター事務局)

学生サークルからのお知らせ

○うえるかむKanagawa

私達は英語を楽しみながら学んでいるサークルです。

☆例会は毎月第2、第4水曜日(試験月等変更有り)

*例会: Benny class (3クラス) 10:15~12:30

English songs 13:15~13:30

Group study 13:30~15:30

☆その他うえるかむ名画座、ゲスト講演会、懇親会等詳細は談話室のちらし、又は下記のHPでご覧下さい。

<http://welcome-kanagawa.jimdo.com/>

☆サークル活動を一度覗いてみませんか。

お問い合わせ: 星 礼子 090-4054-8282

○人間学研究会

〈例会〉

★2月 8日(日) 午後1:00~

「日記から見る大正時代の生活」

★3月 8日(日) 午後1:00~ 第8講義室

★4月 4日(土) (開催時間・講義室未定)

★5月10日(日) 午後1:00~

会誌「せせらぎ」現在25号発行済

例会以外にも各種イベントあります。

お問い合わせ: 松本清康 tel:045-302-1121

E-mail: nngnknmtsmt@jcom.home.ne.jp

○放大かながわレク・サークル

★パソコン部: 個人のニーズに応じた学習。

学習日時: 第2、第4木曜日 13時30分~15時30分。

場所: 神奈川学習センター 実習室: 申込制

★ウォーキング部: 2ヶ月に1回、「東海道五十三次」実施中。名所旧跡文化 施設等も対象

★その他観劇、観光、映画、美術鑑賞等。

上記の各種活動はいずれも自由参加。

—会員募集中(随時申込・受付)—

問合せ: 島田 義治 Tel 090-3907-8384

E-mail simada.yosiharu@coral.plala.or.jp

○神奈川合唱団

楽しく一緒に唱いましょう。

今年も、3月21日の学位記授与式にNHKホールにて学歌を唱います。発声法に特に力を入れた指導を受けています。「ふるさと」「もみじ」などの歌を唱っています。気軽に見学においで下さい。

場所 大岡地区センター(神奈川学習センターの向い側)

第1、第3水曜日 午後6時~8時30分

お問い合わせ 家田 0466-34-7545

赤松 044-288-0655

○韓国語同好会

★月例会 第1、第3土曜日(ただし、1月は第2と第3、3月は第1と第2に変更)

① 10:00~11:30 初級クラス

② 11:30~12:00 ミーティング(全員)

③ 12:00~13:30 中級クラス

④ 14:00~15:00 自主学習(「韓国・朝鮮の歴史」ビデオ学習)

★講師 横浜国大大学院生 林恵園先生

★10月27日、会員親睦旅行を実施。横須賀軍港見学と猿島。

★1月10日、横浜高麗苑にて新年会を実施。

★問い合わせ 神奈川サークル協議会のホームページ <http://kcc-ouj.net/hangugo-form/> からどうぞ。

(代表: 斎藤)

○資格取得研究会

看護・福祉分野を中心にキャリアアップや進学・就職を目指す集まりです。現在、大学卒を目指す看護師の方、看護、医療、福祉関係のキャリアアップと認定心理士を取られる方などがいます。内容は例会(情報交換)と講演会の聴講、見学会など。

これからの例会予定

・2月22日(日)10:00~ 講義室未定

・3月22日(日)10:00~ 講義室未定

・4月 4日(土) 開催時間・講義室未定

会費: ¥500(1年間)

ホームページ…<http://shikaku.yumesora.net>

お問い合わせ…080-5546-7913(はこぎき)

○ダンスサークル (社交ダンス)

場所:神奈川学習センター第7講義室
 曜日:第2・第火曜日 *第1・第3火曜日自主練習
 時間:午後2時~4時 講師:菊島弘明・ユリ子
 会費:1か月 1500円

活動内容:社交ダンス(モダン、ラテン)の学習(ダンスパーティーで踊れるレベルに)

ダンスはスポーツです。健康増進(特に、姿勢が良くなる)、ストレス解消に、楽しく踊りませんか!! 人生がより明るくなります。不定期ですが、1泊での実習旅行も実施しています。初めての方も楽しく踊っています(初心者、歓迎!)

また、全科履修生の方は30時間のレッスンで、体育実技1単位を取得できます。

連絡先:宮川京(代表)TEL:045-933-9753

○中国語学習会

古の昔から、日本語との関係が深く、4000年の歴史がある中国語を学んでみませんか。二人の中国人先生の丁寧な指導のもと、中国語を楽しく、和気あいあいと学んでいます。

学習日には、どうぞ見学してください。

☆学習日:第一、第三日曜日

☆学習時間:10時~12時 中級(告旭平老師)

教科書:「本気で学ぶ中国語」

13時~15時 初級(唐斌老師)教科書:「中国語会話301初級」

入門者、初心者向けに、発音からの入門コースを適時開催します。

問い合わせ:大橋 義暢(オハシ ヨシノブ)

Mail:y.ohashi1214@ezweb.ne.jp

TEL:080-5406-0084

○神奈川放友会

豊かで実りある学生生活を共有することを目的に、「学び」と「触れ合い」を柱とする幅広い活動を展開し、140余名の会員から強い支持を得ているサークルです。

☆学びの場の活動

・例会(公開)平成27年2月8日(日) 場所:学習センター第7講義室

第一部:演奏会、第二部:学習情報交換会(第二学期に学んだことを発表し合う場)

・投稿企画『私の趣味・道楽』:会員より投稿を募集・逐次発信中 第4作:旧五街道弥次喜多歩き旅、第5作:私が趣味にしたかったもの、第6作:将棋と私、第

7作:故郷応援隊、第8作:フリーソフト立ち読み話…
 ☆触れ合いの場の活動

・お花見・卒業祝賀会:平成27年3月29日(日)

弘明寺公園でお花見の後、卒業を祝う会(今年も十数人が卒業見込み)

☆毎月の活動:俳句の会、書に遊ぶ会、女性の会他
 詳しくはWebで、<http://kanagawa-hoyukai.jp>

お問合せ:山崎正之 info@kanagawa-hoyukai.jp

神奈川同窓会だより

神奈川同窓会は卒業祝賀会にて大活躍!

☆平成26年度学位記授与式3/21→NHK

卒業・修了祝賀パーティ→ホテルニューオータニ

☆弘明寺サロンおよび会内同好会

①弘明寺サロン3/18

②映画研究同好会→2月15日「南極物語」

☆春のフェスタ3/1→映画会「鉄道員・ぼっぼや」

☆サークル成果発表会→社会貢献講演&太極拳

☆同窓会会員の他一般学生大歓迎

HP:→<http://hato.net/>

お問い合わせ…045-333-4426 金田 保男

<p>春のフェスタ・ヨコハマ 日時:2015年3月1日(日) 10:00~15:00 場所:放送大学神奈川学習センター 第8講義室</p>	
<p>映 画 鑑 賞 会 : 10:00~12:00 第8講義室</p>	
<p>【上演映画】『鉄道員【ぼっぼや】』 1999年作品 渡田次郎の自伝体実作を、高倉健主演で映画化した人生ドラマ。新金入りの鉄道員【ぼっぼや】として気概と誇りを胸に生きてきた男が、定年目前になり自らの人生を振り返る。監督は「あ・うん」の降旗康男。共演に大竹しのぶ、広末涼子。 北海道のローカル線、幌舞線の終着駅・幌舞。駅長・佐藤乙松は新金入りのぼっぼや。職務に忠実なあまり、生後2ヵ月で死んでいった娘や思いがけない病で死んだ妻を見取ることさえできなかった。佐藤は近く典線になる幌舞線とともに定年を迎えようとしていた……。</p>	
<p>主 催 : 放送大学神奈川同窓会</p>	
<p>講 演 会 : 13:00~15:00 第8講義室</p>	
	<p>講師:放送大学 濱田 嘉昭教授 (元神奈川学習センター所長) 演題:『出あい、触れあい、学びあい』 講師からのメッセージ:放送大学の目的や学習の仕方を原点に立ち返って、また現在の社会における生涯学習の状況を踏まえて、もう一度、皆さんと考えてみたいと思います。</p>
<p>主 催 : 神奈川サークル協議会</p>	
<p>入場無料 事前申し込み不要(直接会場にお越し下さい) 主催:神奈川サークル協議会/放送大学神奈川同窓会(共催) 後援:放送大学神奈川学習センター お問い合わせは、045-491-9111(木下)まで</p>	

◆学習センターからのお知らせ

◆2015年4月入学生 ただいま第1回出願受付中！

対象学生： 教養学部(全科・選科・科目)、大学院(修士選科・修士科目)

出願期間： 平成26年12月1日(月)～平成27年2月28日(土)

願書配付： 無料で配付中！ 詳しくは下記へお問合せいただくか、
神奈川学習センターHPからご請求ください。

勉学は正に心の糧、楽しく知って人生を楽しみましょう！！

◆入学生の「面接授業の科目登録申請」概要

《新規4月入学生※1》

申請科目：面接授業科目(放送授業科目は出願時に登録済)

申請期間：平成27年2月13日(金)9時～2月28日(土)24時まで

申請方法：システムWAKABAへログインし科目登録申請(郵送申請不可)

※1：平成27年1月16日(金)までに出席し2月9日(月)までに学費納付者が対象

《継続4月入学生：学籍が平成26年度第2学期で終了(自主退学除く)する方。》

申請科目：放送授業科目、オンライン授業科目、面接授業科目(※2)

申請期間：平成27年2月13日(金)9時～2月28日(土)24時まで(※3)

申請方法：システムWAKABAへログインし出願後、科目登録申請(郵送申請不可)

※2：面接授業科目は、放送授業科目、オンライン授業科目登録後申請可能

※3：この期間以外の平成26年12月1日(月)～27年2月12日(木)及び3月1日(日)
～20日(金)に出願した者は学期当初から面接授業の登録不可

【重要】学生募集要項(特にP28からP29)を必ず熟読・理解すること。

◆在学生(※1)の「科目登録申請」概要

申請科目：放送授業科目、オンライン授業科目、面接授業科目

申請期間：平成27年2月13日(金)9時～2月28日(土)24時まで

申請方法：システムWAKABAへログインし科目登録申請(※2)

※1：平成27年度第1学期にも引き続き学籍のある方(入学金支払不要の方)

※2：「科目登録申請票」郵送による申請方法があり、この方法の申請期間は、
2月13日(金)～2月27日(金)大学本部必着

【重要】科目登録申請要項を必ず熟読・理解すること。

◆客員教授による公開講演会開催

A. 2月7日(土)13時～14時45分 石原 修先生『プラズマ宇宙』

B. 3月7日(土)13時～15時 村田忠禧先生『対話・交流を通じて相互理解を深めることの大切さ』

受講方法 下記お問合せ先へ参加申込ください。

※2月7日(土)15時～17時 大学概要説明・施設見学・個別入学相談実施

◆事務室からのお知らせ

①まだまだ、寒さが続きます。手洗い・うがいの励行、適度な運動、バランスの摂れた食事、十分な睡眠、規則正しい生活を心がけましょう。

②大雪等による臨時閉所があり得るので、HPやCNを日頃から見てください。

③本センターの駐車場は身体に障がい等がある等の理由で特別に許可された学生のみが利用できます。許可のない方の駐車はご遠慮ください。

お問い合わせ： 放送大学神奈川学習センター

電話045(710)1910 (月曜日・祝日を除く、9時10分～17時40分)

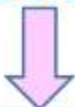


科目登録を申請してみよう！

From 事務室

みなさんの学修をサポートする学内システムがあります。
 インターネット環境がなければ、センター実習室のPCを活用！
 気楽にトライ、めげずにトライ、毎日触れてPCに慣れましょう！
 今回は、システムWAKABAから、科目登録申請の仕方をお見せします。
 (新規4月入学生及び在学学生向け)

ここに <http://www.sc.ouj.ac.jp/center/kanagawa/index.html> を入力後、
 Enterキーを押すと、神奈川学習センターHPが開きます！



○ はマウス
 左ボタンをクリック
 する場所です。



上段:ID ⇒ ハイフンを除いた学生番号(半角)
 下段:パスワード ⇒ 西暦の生年月日 (8桁)
 を入力後、ログインボタンをクリック



システム WAKABA が開きます！



○ はマウス左ボタンをクリックする場所です

《参考》
継続入学生は「継続入学申請」をクリックし、システム上で
① 出願手続き
② 科目登録手続き
をします。
※入力画面は省略



○ はマウス左ボタンをクリックする場所です



科目登録申請 入力操作説明

～システムWAKABA 操作説明ガイド～

◇平成26年度第2学期申請期間
 Web：8. 15(金)9時～8. 31(日)24時

【ご注意ください】
 ◆本ガイドは、システムWAKABAで登録申請いただくための操作説明を目的としています。
 ◆平成26年度第2学期入学許可者（入学許可受領者）は、直接授業科目のみの登録申請となります。
 ◆申請にあたっては実際の画面に従い、**曜日等は科目登録申請要領などでご確認**をお願いします。

科目登録申請入力操作説明書に従い、申請しよう！